

# 第8回 Real minor scaleの世界⑤

Real minor scale systemの重要なスケールは「VII-IV」「III-VI」でした。残りのスケールは局所的に使われるのみで、Tipsとして覚えてしまえば十分です。まずr.mIIのDorian ♭2は使われません。残りがr.mIの「Real minor」とr.mVの「Mixo-Lydian ♭6」です。共に使われるところが限定されますのでポイントを解説していきます。

## Real minor (r.mI)

ややこしいことにプライマリースケールの「Real minor scale」と同一名称になっています。使われる場所は2箇所だけです。

- .VIImからのソプラノクリシェでVIIm△7
- .IV△7からのモーダルモーションでIVm△7

まずはスケール確認をしましょう。もっとも使われるポジションのIVで示してあります。

## Real minor (r.mI)

注：まず使わない

Fm△7 (9) Fm△7 (9 11) Fm△7 (9 11 13) F-Real minor

R 9 (テンション) m3 11 (テンション) P5 13 (テンション) Δ7

注：コードには使わない

1	全音・半音	
2	インターバル構造	R 9 m3 11 P5 13 Δ7
3	対応コード	m△7 m△7(9) △7(9 11)
4	テンション・アボイド	テンション=9 11 (13) アボイド無し

## Real minorの使い方

## 1. VImからのソプラノクリシェでVIm△7

## 【Tips】 クリシェ

コードが比較的保持された進行にて、ある1音が、半音または全音にて連続して動く現象。トップノートのソプラノクリシェと、ベースで行うベースクリシェに大別される。この他に内声クリシェというものもある。

ソプラノクリシェ

VIm△7

ベースクリシェ

代わりにAm/GやG6も使われる

代わりにD7/F#も使われる

クリシェの動きをクリシェラインとも呼びます。このようにVImから始まるクリシェが典型例ですが、

C — C△7 — C7 — C6

C — C+ — C6 — C7

などの例もあります。

## 2.IV△7からのモーダルモーションでIVm△7

俗にいう「サブドミナントマイナー」と呼ばれるIVmで、Real minorを適用させることができます。前にも少し記しましたが新標準音楽理論にて、「サブドミナントマイナー」とは「ルートがサブドミナントの位置にあるマイナーコード」の意味になります。この解説はもう少しお待ち下さい。

IV – IVm – IIIIm – VIIm      IVmのバリエーション

The image displays four systems of musical notation, each representing a different variation of the IVm chord. Each system begins with the F $\Delta$ 7 chord. The second system shows the Fm $\Delta$ 7 chord, which is highlighted with a red box and labeled 'Real minor'. The third system shows the Fm $\Delta$ 7 chord with a different voicing, labeled 'Dorian'. The fourth system shows the Fm $\Delta$ 7 chord with a different voicing, labeled 'Diminished'. A blue bracket groups the first three systems, and a red box highlights the Fm $\Delta$ 7 chord in each system. The notation includes treble and bass clefs, a 4/4 time signature, and chord symbols above the notes.

このようにIVmのポジションには、一般的なDorianだけでなく、様々なコード&スケールが使われる場所です。響きの違いなどから好みで使い分けて構いません。特に最後のFo7(9)は非常に魅力的で「Diminished scale」に対応するコードです。一般の理論書では割りと初期に取り扱われる「Diminished」と「Augmented」ですが、これまではわざと取り上げませんでした。この理由の詳細は後ほど説明します。

# Mixo-Lydian $\flat 6$

Mixi-Lydian  $\flat 6$  (r.mV)

E7 Esus4<sup>(9)</sup> = Bm7 / E

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R 9 M3 11 P5 $\flat 13$ m7
3 対応コード	7 sus47(9)←この形のみ使用
4 テンション・アポイド	テンション=9 アポイド=11 $\flat 13$

r.mVのこのスケールは、たった一つの理由で使わないことを推奨されています。その理由は「カッコ悪い」からです。いわゆる、昭和歌謡やムード歌謡のような古臭いサウンドになってしまいます。しかしながら、スポット的に一箇所だけかっこよく使えるポイントがあります。sus47(9)からのダブルストラクチャーコードをIII7にて用います。

## その他のスケール

ここまで、音楽の中心的な柱、Diatonic scaleから作られるコード&スケール14本の解説を終えました。学ばなければならない全スケールは18本です。残されているのは「特殊系」4本ですが、そのうち「Harmonic minor P5th below」は解説しています。残りは3本です。

## Diminished

Co7    Co $\Delta$ 7    Co7<sup>(9)</sup>

モーダルのコードで重要

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R 9 m3 11 o5 b13 o7 Δ7
3 対応コード	o7 oΔ7
4 テンション・アボイド	テンション=9 11 b13 Δ7

## Combination of diminished (Com-Dimi)

C7    C7<sup>(b9)</sup>    C7<sup>(#9)</sup>    C7<sup>(b9 13)</sup>

メインコード

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R b9 #9 M3 #11 P5 13 m7
3 対応コード	7 7(b9) 7(#9) 7(b9 13)
4 テンション・アボイド	テンション=9 11 b13 Δ7

## Whole tone (Augmented)

C+7    C7<sup>(b5)</sup>    C7<sup>(9 #11)</sup>

1 全音・半音	
2 インターバル構造	R 9 M3 #11 +5 m7
3 対応コード	+7 7(b5) 7(9 #11)
4 テンション・アボイド	テンション=9 #11 アボイド無し